ヴィーナス通信

Venous（静脈）Venus（護美の女神）

第４０号
（新年号）

発　行　東多摩再資源化事業協同組合
理事長　紺野武郎　編集長　吉浦高志
東京都東村山市久米川町１－１６－１８
Tel&Fax　０４２－３９５－９７８８

ＵＳＯ８００シリーズ取得者急増中？

このところ偽装・改ざん・詐欺・不祥事などの事件が後をたたない。瞬間湯沸かし器に始まり自動車・建築設計・食品・建材果ては介護施設・英語学校・厚労省・防衛省に至るまできりがない。

告発され謝罪を繰り返す一流企業や老舗のホームページを開いてみると、必ずと言ってよいほどＩＳＯの９０００シリーズや１４０００シリーズを取得してトップページに掲げている。さらに社内の内規・訓示も厳しく定めている。

ＩＳＯ（国際標準機構）とは、国際的な標準規格を策定するための民間非営利団体で本部はスイスのジュネーヴにある。

その９０００シリーズは、品質保証をはじめとする維持管理について、１４０００シリーズは、環境への負荷管理などについて認証するシステムになっている。

品質保証品質管理の国際的な認定を、毎年大金を払って更新していたのは、ただ看板に掲げて市民の目を欺くための隠れ蓑だったのか。

リユース・リサイクルの環境認定を重んじて、賞味期限のレッテルを何度も貼り直していたのか。

リデュース（発生抑制）が最優先と鉄筋やその強度を減らしてしまったのだろうか。

これらの企業には、ＩＳＯ認定の取り消しはもちろんであるが、新たにＵＳＯ（うそ）八〇〇シリーズの認定を取得して頂いてはどうだろうか。

ここで特に問題になっているのが、食品・食材の賞味期限や生産地の偽装事件だが、続々発生する賞味期限の改ざんは何を物語っているのか検証の必要がある。

消費者に対する食への真の安全基準は確立しているのだろうか。賞味期限は本当に必要なのか信用できるものなのか。過度の美食・飽食を煽ってはいないだろうか。現実には賞味期限消費期限などの改ざんが当たり前の商習慣になっているのではないか。等など

日本の食糧自給率は三九％まで低下しているという。先進主要国のフランスは一三〇％・米国一一九％・ドイツ九一％・英国七四％にはほど遠い。

ところが日本人一日一人当たりの食糧供給量約二六〇〇キロカロリーに対し、食糧摂取量が二〇〇〇キロカロリーであり、二三％に当たる六〇〇キロカロリーを捨てていることになる。その中でも手付かずに捨てる食品が十一％にもなるというから恐ろしい。

賞味期限通りに処分していたら大変なことになるのかも知れない。

昨年一〇月二九日、日本経済新聞春秋にこんなことが記されていた。

『明治中頃の東京で、大勢の人が白い飯を食べている所は軍隊ぐらいだった。そこの食べ残し分を「残飯屋」が仕入れて、菓子屋に販売され、おこしや大福になった。

兵営の排水溝に流れる飯粒を網ですくう「流れ残飯拾い」と呼ばれた人もいて、貧しい人々の食を補った。期限切れで捨てられる弁当の山を見て、このままではまずいと思う人も多かろう。』（要約）

原油をはじめ原材料は高騰し、バイオ燃料の普及で世界の穀物流通にも赤信号が点りだした。

現在「京都議定書」で約束したＣＯ２削減目標値の一四％も上回っている日本が、洞爺湖サミットの議長国になる来年七月まで、毅然とした態度とこれからの具体的数値を示さなければ世界は許さない。

各企業は、偽装や改ざんとＵＳＯ八〇〇を吐いてまで商売を拡大するよりも、「もったいない精神」を発揮し品質や環境負荷の管理を徹底して頂きたい。今年こそは偽から真に変わることを祈る。（Ｔ・Ｋ）

直言拝聴

「地球温暖化防止　私たちにできること」

エコダイラネットワークメンバー
小平・環境の会理事長
馬場悦子

「地球温暖化」という言葉を、目や耳にしない日はないというくらい、今、世界中で地球温暖化現象が騒がれていますね。

小学校で環境学習のお手伝いをしていて、こども達に『地球温暖化』って知っていますか」と問いかけるとほとんどの子が知っていると答えます。そこで一歩踏み込んで「それでは地球温暖化とはどういうこと？」と聞くと首を傾げたり、「オゾン層・・・」とか答えが返ってきます。

自分達の暮らしの中で電気やガス、車のガソリンなどいろいろなエネルギーを使って排出している二酸化炭素（ＣＯ２）が地球温暖化を引き起こしているという実感には至っていないようです。

■省エネは自分達の排出している二酸化炭素（ＣＯ２）量を知ることから

エコダイラネットワークの省エネルギー部会(※)では、二年前から「環境家計簿」を使って省エネ活動を提案しています。そのことは前号のヴィーナス通信でも紹介していただきました。

電気・ガス・水道などのエネルギー消費量をチェックすることで自分達の足元から地球温暖化防止しようという試みで、環境家計簿を毎年七月から十二月まで参加家庭と事業所に配布し、前年比で二酸化炭素（ＣＯ２）排出量５％削減を目標にしています。

市報の広報とメンバーの口コミで参加者を募り、一年目は、六十二家庭、十九事業所、二年目は六十九家庭、十九事業所、そして三年目の今年は九十八家庭、十八事業所が参加し、家庭の参加者がだんだんと増えてきています。

参加者には『やって得する省エネヒント集』を作成し配布しています。一年目の参加者には基礎的な初級編を、二年目の方には省エネ機器を紹介した中級編を、三年目の方（二十三家庭、十八事業所）には、新エネルギー特集の上級編を配りました。また、毎月配布する環境家計簿では、水道、電気、車などテーマごとの省エネ情報を提供し、市役所へ返信してもらう月毎のエネルギー使用量の記録用紙には、我が家の省エネの工夫・アイデアを書いていただいています。「窓にすだれを取り付ける。植物で日よけを作る。／電気ポットを止め、その都度やかんで沸かす。／節水型の洗濯機に買い替えたら、水道使用量が減った。／電気釜の残りのご飯を冷凍にして保温を切る。／雨水をワイン樽に入れ使用している。」など沢山の情報が寄せられ、それは家計簿と一緒に配布するニュースで参加者全員にお知らせしています。

ＣＯ２削減結果は一年目は３％（事業者３．４％、家庭０．５％）でした。減らしたＣＯ２の量は一五五四二ｋｇ。杉の木二二二〇本が六ヶ月に吸収するＣＯ２の量に相当します。二年目の昨年も同じく全体で３％。内訳は家庭４．９％、事業者３．０％でした。減らしたＣＯ２の量は二七六八七九ｋｇ。杉の木三九五五四本が６ヶ月に吸収するＣＯ２の量です（杉の木１本が六ヶ月間に吸収するＣＯ２の量は七ｋｇ）。

毎年二月に環境フォーラム「楽しく省エネ！みんなで省エネ！」を開催し、目標の前年比５％削減を達成した、エコ家庭、エコ事業所に市長より表彰状が手渡されます。参加者全員には、六ヶ月間のＣＯ２排出量をグラフにしたものをお渡ししています。ちなみに目標を達成し表彰されたのは一年目（〇五年度）は八家庭、四事業所、二年目（〇六年度）は十四家庭、四事業所でした。

電気、ガス、水道それぞれの使用料をチェックして、自分達が家庭や事業所でどれくらいエネルギーを使用しているかを知ることで、省エネの意識は確実に芽生えていきます。省エネの第一歩は自分の暮し方を見直すことから。そしてそれは光熱費の節約にもつながり一挙両得です。

また、希望者には、省エネナビ（使用電気量測定器）やワットアワーメーターを貸し出しています。使った方からは「電気機器の待機電力量が意外に多いことを知った」という感想が寄せられました。

環境家計簿の配布は、市が委託しているごみの収集業者の方にお願いをしています。データの集計

は市の職員の方がやってください。そして、家計簿作成と普及は市民と三者協力しての実践活動です。環境家計簿の絵は市内にある武蔵野美術大学の学生さんにお願いしてします。省エネキャラクター、エコちゃん、ロジーくんも大学生にデザインをお願いし、名前は環境家計簿参加者に公募をして決めました。

省エネルギー部会では、市内の環境関連のフェスティバルに参加して、『我が家の省エネ度チェック』も実施しています。家庭でできる省エネ十項目についてそれぞれ「いつもしている」、「時々している」、「やっていない」をチェックしてもらい、その家庭の省エネ度を「ずばり省エネ家族」、「まあまあ省エネ家族」、「まだまだ省エネ家族」、「もっと省エネ家族」の四段階で評価するものです。記入したチェック表はそのまま持ち帰って家庭で省エネに励んでいただきます。子どもの挑戦者も多く、今年は子どもバージョンも作りました。

また、年に数回、自治会や学校に呼ばれて環境の話や環境学習のお手伝いをしています。これから、の地球の未来の担う子ども達にはぜひ環境のことを真剣に考えて欲しいと力が入ります。

（※）エコダイラネットワーク

○三年に「小平市民版環境配慮指針配慮指針　変えよう　私たちの暮らし方」を作成し。その後その実践・普及活動をしている。

■落ち葉はごみ？

地球環境を汚したくない、そのためにごみを減らしたいという想いから、環境の市民団体「小平・環境の会」に関わって十二年になります。これまでごみ削減のためにと行ってきた活動が、地球温暖化防止活動へとつながっているのを感じます。

家庭のごみの四十％を占めるといわれる生ごみのほとんどは燃やされています。その生ごみを資源化したいと、市内小学校の給食の生ごみ乾燥処理物と腐葉土と合わせて堆肥をつくり、畑で野菜作りの実験を行って五年目になります。結果的にＣＯ２削減と緑の創出という活動をしてきたことになります。昨年からは、生ごみだけでなく、燃えるごみとして出されている落ち葉も資源として活用できないかと模索をしています。

小平市には玉川上水があり、両岸にはクヌギやコナラなど雑木林の木が沢山あります。十一月末から年明けにかけて大量の落ち葉がでます。周辺の住民にとっては、雨どいを詰らせたり、玄関や庭先を埋めるやっかいものの落ち葉ですが、市内の農家にとっては、土作りに欠かせない腐葉土となる貴重な資源です。ごみを減らしたいと考えていた私たちにとって、落ち葉がごみとして出され、地下資源の石油を掛けて燃やされ、ＣＯ２を排出しているのはなんとムダなという思いがありました。市内の落ち葉を農家が有効活用するシステムを作れないかと考え、昨年、玉川上水で落ち葉を掃きイベントを行い、集まった落ち葉を農家へ渡しました。今年も十二月八日に四十人以上の市民が集まって、トラック三台分の落ち葉を集めました。市長も参加し一緒に汗を流しました。社会福祉協議会主催のこどもボランティアスクールの活動の一環として、市内小学五年生のお子さんたちも参加し、「落ち葉を集めることで『ありがとう』といわれて達成感を感じた」という感想が寄せられました。子ども達が楽しみながら、身の回りの環境活動に気づくきっかけづくりに貢献できると嬉しいです。

■こだいら菜の花プロジェクト

地球温暖化防止活動につながる新しい事業として、市と農家と市民との連携が始まっています。市内の低利用農地を活用して、菜の花を植え菜種を取り、油を絞ってその廃油をバイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）として使おうというものです。十月に五百坪（一五六〇㎡）の農地に菜種を蒔きました。菜の花の鞘はよくＣＯ２を吸収するそうです。またＢＤＦはＣＯ２を排出するものの、菜の花が生育中にＣＯ２を吸収するので、排出量はゼロと換算され環境にやさしい燃料なのです。

このように、小平ではいろいろな試みがスタートしています。環境家計簿をつけたり、畑の活動をしていると、ここ数年の異常気象を肌で実感します。地球温暖化現象は遠い国の話ではありません。私たちの足元に押し寄せてきています。みんなで、できるところから、今すぐ始めなければと思います。

エコダイラネットワークでの環境学習の様子

２００８年の抱負

理事長　紺野　武郎

地球は温暖化がいっそう加速し、偽装改ざん不祥事騒ぎで日本列島は凍りついた一年でした。

モラル崩壊が危ぶまれる今、組合は、全員が日資連の認定制度を取得し、エコアクション２１の認定も間近で、業の法令順守と環境意識の更なる向上に努めております。

青年部も設立５年を経て、リサイクル事業の明日を引き継ぐべく勉励し、エコ検定の取得などにも努めているようです。

今後とも地域の理想的な循環社会作りに、組合員全員の力を結集して参ります。

変わらぬご支援ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

総務委員長　萩原　貞雄

組合設立より、十五年目の新春を無事に迎えました事、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、環境資格「エコアクション２１」の取得研修、日資連や東リ協会の活動への参加など、充実した活動を行いました。

本年も、昨年に引き続き、地元の市や市民に確実に信頼されるような委託業務の遂行、内外の研修会やリサイクル活動への参加等に尽力して参りたいと思います。

今年も宜しく御願い申し上げます。

業務委員長　小畑　和夫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は赤福や白い恋人、船場吉兆など長い間人々に親しまれ、そしてこれなら間違いないといった信用を築き上げてきたものが、次々と信用を失ったことが続いた年でした。

組合は、市民の皆様と関わり持ちながら、集団回収や行政回収などを行ってきており、そうゆう意味では、私たちもさらに襟を正し、市民や行政に信頼される業務を行っていくように、精進していかなければならないと思います。

今年もよろしくお願い致します。

謹賀新年

財務委員長　古川　敏雄

今年は、組合設立十五年の節目の年となります。

昨年に引き続き、経費の削減、業務の合理化、エコアクション21の取得、日資連・東リ協会等の活動への積極的な参加等、我々組合員の知識・技術の向上のために努力して行きたいと思いますので、尚一層の皆様の御協力を頂きますよう御願い致します。

集団回収委員長　土井健一郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、集団回収団体の皆さんと説明会、懇談会を数ヶ所しか開催することしか出来ませんでした。

本年は、昨年以上の回収団体の皆さんに、集団回収の意義と大切さを説明したいと思います。

集団回収は、資源の再資源化だけではなく、地域コミュニティーの活性化、地域の防犯等に役立つ活動だと言う事を広く理解して頂く様に努力していきたいと思います。

福利厚生委員長　藤野　祐子

あけましておめでとうございます。本年も組合の福利厚生事業の充実を目指して頑張ります。より一層の御支援の程宜しく御願い申し上げます。

広報委員長　吉浦　高志

昨年は各地、各施設の研修、視察、エコ検定、各市リサイクルフェアなどの報告が充分にでき、充実した広報委員会であった。

本年は古布のリサイクルについて徹底して勉強し、報告していきたい。又、資源の輸出は活況が続くと思われるので、現地取材を積極的に行い、ヴィーナス通信に載せていきたい。資源の輸出によって影響を受ける国内メーカーの対応も合わせて調べ、報告する。

青年部長　藤野　理広

世間もメディアも、リサイクルに対する姿勢が良い方向に向かっていると思われます昨今、我々青年部としても、力を抜く事なく、地域密着型のリサイクル活動を続けていきたいと思います。

「環境問題のウソ」はウソ？ホント？シンポジューム
議論噛み合わず

去る10月7日(日)午後1時半～5時半まで一ツ橋大学・国立キャンパスで「環境問題のウソ」はウソ？ホント？と題して緊急シンポジュウムが開催された。

これは中部大学教授・武田邦彦著書の「環境問題はなぜウソがまかり通るのか」(洋泉社)の内容について議論を深め、疑問点を洗い出すために行われた。当日は参加者300名余と主催者の予想をはるかに超えるものであった。

武田教授のプレゼンテーションの後、各パネリストとの発表と質疑応答、参加者との質疑応答と行われ、6時で時間切れとなった。

第1部で「資源7倍・ごみ7倍になるリサイクル」題してディスカッションが行われた。

この中で特に取上げられたのがペットボトルリサイクルである。ペットボトルをリサイクルすることにより、平成5年から16年にかけて資源（石油）を7倍使い、ごみも7倍になった。と武田教授は計算結果が出ると主張する。しかしこの計算の内容が聞いていてどうも、はっきり分からない。パネリストのリサイクル事業者の明円工業工場長の八木雄一郎氏は自社の製造段階でかなり詳しくデータを取り分析結果を発表しペットボトル他樹脂製造の場合、材料リサイクルのほうがバージン樹脂を新しくつくるより電力、石油ともに消費量は少なくて済むことを示した。これに対する武田氏の反論はない。このシンポジューム全体を通して武田氏以外のパネリストの説明や反論に対しては、氏からの明瞭な反証は聞けず、氏の自己主張を述べているにすぎない印象を受けた。

ペットボトルの消費量は年々増えている。現在では年間50万トン以上で平成5年頃は12万トンであった。この増加を氏は分別回収しリサイクルするようになったからだと結論付けている。リサイクルより焼却したほうが環境に良いとも主張している。この説明は誰も直感的におかしいと分かる。リサイクルが原因で生産量が増えたのではなく、その逆であることが。焼却して単に熱としてとして発散させてしまうより、限りある資源を有効に繰り返し利用出来るならリサイクルした方が良い。

また、ペットボトルの有償国際取引(特に中国に輸出している)は国際的な約束に反している行為であり日本の国際的信用を落とすだけである。というが、バーゼル条約(有害廃棄物の国境を越える移動の禁止)違反ではない。ペットボトルは有害物ではなく、売買され中国では再商品化され、国際的な資源循環となっている。

休憩を挟んで第2部ダイオキシンの毒性についてのディスカッションに入った。ここでも氏と他のパネラー間の白熱した議論は無く互いの主張はすれ違った。武田教授の云うようにダイオキシンの毒性は弱く、微量ならほとんど問題にならないほど無毒であり、体内に蓄積しない。と主張するなら、ダイオキシンをご飯のふりかけにして毎日食べてもらいたいものだ。氏はレジメのなかで、「日本人の魂」を大切にすると記しています。それなら、かつて日本人が行っていたリサイクル、下肥の買い集め、古着、紙くずひろい、木炭や薪の灰、傘の古骨買い、使い古したシュロぼうきの下取りなど、いろいろなものをリサイクルしていた精神を継承しリサイクルはすぐ止めようなどと言わないことである。

当日のパネリスト。武田邦彦(中部大学総合工学研究所教授)＊遠山千春(東京大学教授、化学物質の健康影響を研究)＊中下祐子（弁護士、ダイオキシン・環境ホルモン国民会議事務局長）＊村田徳治(循環資源研究所長、廃棄物・化学物質問題コンサルタント)＊庄司元(全国都市清掃会議・元調査普及部長、環境文明研究所客員研究員)＊八木雄一郎（リサイクル事業者、明円工業工場長）＊鈴木秀明(静岡大学農学部4年・Japanann Young Greens代表)＊杉本裕明（ジャーナリスト）。

シンポジウムで講演する武田邦彦氏

（社）東リ協会横浜視察に参加して

◎古着百三十種類に仕分け
◎海に面した輸出ヤード
◎鉄屑を船に直接積込み輸出

昨年十一月十二日（火）、（社）東京都リサイクル事業協会主催の見学会に、参加した。

秋晴のすばらしい天気にかこまれて、「古繊維資源化ヤード」、「リサイクルポート山ノ内」、「鉄スクラップシッピングヤード」の三箇所を視察した。

古繊維工場・ナカノ

●「古繊維（古布）資源化ヤード」

㈱ナカノ泰野工場

住宅地の中にあるとてもきれいな施設である。

二階建ての工場で、一階で荒選分された古布がコンベアで二階にあがり、十七名の作業員によって百三十種類に仕分けされる。一時間に四～五トン、一日十トンの作業である。

仕分けされた古布は、中古衣料として輸出に五十パーセント、ウエス材（機械の油拭き）として二十パーセント、反毛材（椅子や車のシートのクッション材など）として十パーセントくらいで販売される輸出先はマレーシア、インドネシアが多い。

中国に販売したいが、中国では中古衣料は輸入禁止との事である。

リサイクルポート山ノ内

●「リサイクルポート山ノ内」横浜市資源リサイクル事業協同組合

横浜市資源組合の輸出ヤードである。

プレス機と台貫があり、市内で回収された新聞、雑誌、段ボールが選別処理されていた。

月に六百トン位である。プレスされたウエスも保管されていた。

●「鉄スクラップシッピングヤード」和光金属

船に直接鉄スクラップをクレーンで積み込んでいた。

クレーンは三十トン、四十トン各一台ずつ使用していた。

一船に千トン位積み込むらしく、クレーンが鉄スクラップを鷲掴みして、ガンガン積み込む様は圧巻である。

今回の見学会は、我々が取り扱う品目の中で、唯一流れの悪い古布の処理を見学、勉強できた事は、大変有意義だった。

（吉浦）

（社）東リ協会台湾視察に参加して

◎カレットから色付ビーズを生産
◎資源物のボランティア回収

昨年十二月四日～六日、（社）東リ協会調査研究委員会主催の台湾視察に参加した。

四日：一二：三〇台北空港着。

国立台湾民主記念館・龍山寺などを見学する。

国立台湾民主記念館は、故総統蒋介石の祈念堂で、青い屋根に白

視察先での説明会の様子

亜の重厚な殿堂だったが、現政権によって二階部分から閉鎖され、正門前では「中正祈念堂」の金文字を取り壊すためのクレーン車と反対する市民そして取材カメラ陣がごった返していた。

五日：**台宝瑠璃工業股分有限公司（ガラス製品のリサイクル工場）視察**

カレット回収量は年間七〇〇〇トンで主力は製びん原料だった。視察したのはガラスビーズ工場で、用途の少ない色付きカレットから色々な大きさのビーズを生産し、装飾壁材や建材・路盤材・ビーズ細工材などに利用していた。

赤と黄色のびんが無いため、無色カレットを一四〇〇度加熱して着色して赤黄ビーズを作っていた。生産量は年間二〇〇トン程度で欧米などにも輸出している。

カレットのビーズ化には、政府より補助金も出ているが、事業に成功しているのは世界でも当社以外ないのではとのことだった。

：**慈済（スーチー　仏教団体）視察…ボランティアによる資源回収事業を実施。**

台湾最大の宗教団体で各種ボランティア活動をしていて、災害には国際的な支援を行っている。資源回収の取り扱い量は、年間十二万トン（内　古紙は八万トン）だった。廃プラスチックまですべての資源を回収していたが、すべてボランティアの細かい手作業による分別解体処理していた。

古紙一枚一枚手にとって、字の書いている部分と真っ白な部分をハサミで切る分別作業をしているのには驚いた。

色付きカレットから生産されたビーズ

：**樹権企業有限公司（古紙問屋）視察**

月間二五〇〇トンの古紙を取り扱う台湾中堅の問屋である。

すべての古紙を扱っていたが、新聞は少なかった。

設備は、四〇トン台貫一基と古紙プレス機が一機で、プレス機にはコンベアや打解機が無く、ただ地面に一×二m深さ一mの穴があり、ピストンで押すものだった。

バケットで押し込むだけだったが、比較的良くベールされていた。

六日：**世界一高いビル　台北一〇一などを見学　帰国**

高さ五〇八メートルの竹節型中華風デザインのオフィスビルだ。約四〇〇の八九階まで三七秒の超高速エレベーターで展望台に昇り、九一階の世界一高いトイレで用を済ませて帰った。（紺野）

慈済（スーチー）による資源回収事業

トイレットペーパー
「ブーメラン」
（６５m巻き・１００個入り）
来年４月１日より値上げになります。
原油・原材料等の高騰により、値上げせざるを得なくなりました。
1ケース3,000円程度（消費税込み）になる見込みです。
皆様の御理解の程宜しく御願い申し上げます。
※注文は1ケース単位です。
※尚、配達地域は、以下の地域に限定いたします。
（小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・西東京市・東大和市）
ご注文は当組合までお願いします。TEL&FAX：042−395−9788

東多摩再資協 青年部創立五周年

本年度、東多摩再資協青年部は創立以来五周年を迎えることとなりました。

創立以来、組合理事の皆様や、東京都資源回収事業協同組合青年部の皆様を始め様々な方々に絶大なるご支援・ご協力を賜りながら活動を行ってまいりました。

その感謝の気持ちを込め、去る一〇月一三日（土）に久米川駅北口の小千谷にて創立五周年記念行事を開催いたしました。

第一部は記念セミナーとして、株式会社ジオリゾーム代表取締役の井上利一様をお招きし、「本業を通じて社会貢献を目指すＣＳＲセミナー～未来の指導者へ～」というテーマで講演頂きました。

自分の会社は「何業か？」というお話から始まり、欧米との比較の中で日本の企業としての社会貢献のあり方、社長としてのビジョン、社会に貢献する社員を育て、会社全体として、本業を通じて社会貢献することの重要性についてお話頂きながら、ディスカッションを通じて部員の学びの機会を頂きました。

井上先生による記念セミナー

乾杯前で緊張しながら挨拶する藤野部長

第二部は記念式典として、藤野青年部長の挨拶に始まり、青年部のこれまでの活動報告を行いました。

また、先代の土井前部長、東資協青年部岩窪部長、組合理事一同の皆様への感謝状の授与を行いました。

そして、ご来賓を代表して紺野理事長、松本日資連青年部長からご挨拶を頂きました。

第三部記念懇親会では、第一部で講師を務めていただいた井上利一様、来賓としてお越しいただいた、日資連青年部長松本貞行様、東資協青年部岩窪部長様、同じく鰐渕雄二郎様と組合理事の皆様と、飲食を共にしながら懇親を深めさせていただきました。

当青年部は、中国語講座や就業規則作成講座などの勉強会や、エコプロダクツ二〇〇七の視察や施設見学会の実施など、精力的に活動を行っています。

今後とも東多摩再資協のため、この地域の環境を守るため、次世代に継承可能な資源循環型社会形成のために、藤野部長を筆頭に頑張ってまいりますので、益々のご指導・ご鞭撻を賜りますよう御願い申しあげます。

未来を担う子供達と触れ合って

●子どもたちのリサイクル現場探検隊

去る一一月二三日（金）、美住リサイクルショップ夢ハウスが企画する「子どもエコ広場」で、弊社（三栄サービス）に子ども探検隊が見学にやってきました。

「みんなのおうちで分けている古紙の種類って何種類あるかわかる人？」という質問には、「新聞

子どもたちに古紙のリサイクルについて説明

と雑誌と段ボール」ときちんと答えてきました。

さすがにこういう息各に参加する子どもたちは勉強をしてきているようです。

まずは、台貫にトラックが乗って荷物を下ろしてまた台貫に乗るところから、荷物の下ろし場所、禁忌品などの選別、ベーラーでのプレス加工工程、バックヤードに出てくるプレス品とその流通先、再生品について、ヤード内をぐるっと一回りしながら説明を行いました。

最後に、リサイクルするのはもちろん大事なんだけど、「3R」っていうのがすっごく大事なんだよということで、「リデュース～発生抑制」ごみになるものはもらわない、マイバッグやマイ箸を使う、すぐに捨てない、「リユース～再使用」洗ったりしてもう一回使えるものはもう一度使う、そして、それでも不要になったものを「リサイクル～再資源化」するんだよと説明をしました。

必死にメモを取ったり、写真を撮ったりしている子どもたちがおうちに帰ってお母さんやお父さんと一緒にリサイクルについて考えてもらえればと思います。

子どもたちと記念撮影

●東村山市立第四中学校

職場訪問

去る一一月二九日（木）、東村山市立第四中学校の一年生の生徒五名が、職場訪問学習として組合に来ました。

リーダーである生徒さんが司会役を務めながら、五対一の質問攻め（笑）に応えました。

最初は、「どんな仕事をしているのか」「なぜこの仕事を選んだのか」という、私の業務に関わる質問でした。

このあたりは普通に回答させていただきました。

次の質問は、「仕事」をすることの意義などについて。だんだんと考えさせられるようになってきました。

自問自答しつつ、自らの無職時代の話を織り交ぜながら、「生活」のための労働はさることながら、人間が会社というコミュニティに所属し、その中で役割を担い、会社の業を通じて社会に貢献していくことと回答しました。

最後の方では、「中学生である僕たちが今何をすべきか」とか、「今学校で学んでいることは社会にでてどのように役に立つのか」など、中学生らしい質問が飛び出しました。

このあたりになってくると、本当に軽々しく他人の人生を左右するようなことを言えないなぁと思案・・・

「義務教育という枠にはめられている今現状では、やりたくてもできないことがいっぱいあるように思える。

だけど、社会に出てある程度自由になってきたときに、なんとなく自分の可能性というかビジョンの幅が狭められていっていることに気づく。だからこそ、今、色々な可能性を秘めている、この今、このときは、自分の視野を勝手に狭めないで大きな夢を描いてほしい」と回答しました。

社会に学校の勉強が役立つかどうか、これに対しては、「利害関係のない学生時代の友だちは、生涯を通じて本当の親友になりうる。

学校の勉強が、必ずしも社会に出て役に立つわけではないが、勉強することを通じて、切磋琢磨することで生涯の友だちを作ってほしい」と回答しました。

通常の職場体験と違い、業に関わる話以外の質問が多く、面食らってしまう場面もありましたが、誠心誠意、頑張って回答したつもりです。中学生の皆さん、少しはお役に立てたかな？

（みんなのちょっと先輩より）

質問攻め（笑）の様子

市民との対話を通して リサイクルの大切さをＰＲ！

～各市リサイクルフェアに参加～

当組合では、本年度も毎年恒例の各市リサイクルフェアに参加し、リサイクルと組合活動のＰＲを行った。

昨年度は、当組合が実施していた「こんなものいらないアンケート調査」を行い、多数の市民の皆様に御協力を頂いたが、アンケート調査は本年五月末で終了したため、本年は、従来通りの資源の分別方法の指導や、古紙再生商品の販売等を中心に行った。

それぞれのリサイクルフェアでの活動内容は次の通りである。

●小平市エコフェスティバル

九月八日（土）午前十時より午後二時まで、小平市福祉会館前広場にて開催。

前日までの台風通過後の厳しい残暑の中、テント無しのブースで、「古紙分別クイズ」や「リサイクルマーク当てゲーム」を行った他、トイレットペーパー「ブーメラン」、紙ひも「エコひも君みるく」を販売した。

またアルミ缶・スチール缶のプレス物なども展示。

かなりの猛暑の中、来場していた市民の皆様も興味深そうに展示物の見学やトイレットペーパーの購入、クイズ・ゲームへの参加等に来て頂き、我々参加メンバーも汗だくになりながら対応した。

また、当日は健康センターロビーで、小林正則小平市長と小平市民によるごみ問題タウンミーティングが行われ、当組合の紺野理事長も参加して、市長や市民の皆様と交流を深めた。

小平市長と小平市民との
タウンミーティングの様子

●清瀬市市民祭

一〇月一四日（日）、清瀬市のけやき並木通り（清瀬駅前通り）で開催。

初めて市指定のごみ有料袋を使用して、トイレットペーパー「ブーメラン」を販売。大変好評で、午前中で完売した。

また、機関誌「ヴィーナス通信」を配布し、リサイクルと当組合の活動をＰＲした。

小平市エコフェスティバル

清瀬市市民祭

●東村山市環境リサイクルフェア

十月二八日（日）、午前十時から午後三時まで、東村山市役所駐車場にて開催。

すがすがしい秋晴れの下、小平市エコフェスティバルと同様の内容で、出展活動を行った。

トイレットペーパーは、東村山市のごみ指定有料袋（可燃ごみ用のみ）を使用して販売したところ、市民の皆様に好評で、市の環境部からも「いいアイデアですね。」と喜ばれた。

また、古紙分別クイズでは、市民の皆様から、ビールをいれるマルチパックについて質問が集中した。そこで、マルチパックがリサイクルしにくい素材であると説明すると、市民の皆様は、「へぇー、そうなの、全然知らなかったわ。」と目を丸くして驚いていた。

東村山市環境
リサイクルフェア

東久留米市マチヅクリサポートセンター環境問題勉強会

古紙・古着類の出し方を詳しく説明

昨年九月十五日（土）東久留米市中央公民館にて「地球温暖化とその課題と生活環境浄化に取り組む活動報告」に参加し、「資源リサイクルの現状と分別方法について」話した。

吉浦理事が最初に組合概要と業務内容などを説明し、古布のリサイクル、古着の話、出す時の注意点、小畑理事が古紙のリサイクルルート、分別の注意点を話し、また禁忌品を貼ったパネルを会場に掲示したり、現物を各席に配布、説明をして、分別して出すようにお願いした。

参加した人の話では説明を聞くまでは禁忌品を理解している人はあまりいないのではないかという話だった。

終了の際、組合のトイレットペーパー「ブーメラン」を参加者に配布し再生品の使用促進をお願いした。

一〇月二八日（日）には東久留米市西部地域センターにて環境問題勉強会に参加、「集団回収について」話した。

土井集団回収委員長が集団回収は市民にとっていちばん身近なリサイクルであり、ごみの減量をすすめたり資源の有効活用ができるだけでなく、物を大切にする心を育て、リサイクルに対する意識が高められることや、地域の輪を広げることが出来る等という利点を挙げ、集団回収の実施を勧めた。

（小畑）

東久留米市マチヅクリサポートセンター環境問題勉強会

回収業界の全国ネットワーク作りに向けて組織強化

～日資連研修会が開催される～

昨年十一月三日（土）から四日（日）にかけて、東京ガーデンパレスホテル（東京・御茶ノ水）で日本再生資源事業協同組合連合会（日資連）主催の全国研修会が開催された。

初めに、日資連・紺野会長より挨拶があり、続いて講義が行われた。

①大畠章宏氏（民主党衆議院議員・リサイクルシステム議員懇談会幹事長）

日本の資源エネルギーの現状とリサイクルシステム議員懇談会から見た資源リサイクルについて。

②安藤晴彦氏（経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課長）

循環型社会形成推進基本法における資源循環の取組とその効果をあげる施策について。

③富所富男氏（東京都リサイクル事業協会）、中村正子氏（古紙問題市民行動ネットワーク）

行政におけるリサイクルと再生資源業界と二大製紙メーカーの再生紙戦略について。

④毒島龍一氏（千葉商科大学大学院教授）

認定制度の社会的意義及びリサイクル化証明書の社会的影響について。

⑤紺野武郎氏（日資連会長）・佐藤秀夫氏（日資連認定審査会事務局長）・谷中勝典氏（日資連専務理事）

認定制度の運営状況とリサイクル化証明書について。

⑥及川　勝氏（全国中小企業団体中央会）

全国組織の課題と可能性について。

⑦吉村哲彦氏（千里金蘭大学人間社会学部教授）

再生資源の市況の動向と再生資源業界の戦略・経営の方向性について。

⑧小松崇明氏（㈱資源新報社北日本支局長）

海外マーケットの現状について。

挨拶する紺野会長

TAMAとことん討論会

二月二日（土）。東京学芸大学・小金井キャンパスにて開催。
午前九時半～十八時五分。
紺野理事長は、午前の基調報告で「資源リサイクルの検証」について話す。午後の部では、「生ゴミ」、「プラスチック」、「ライフスタイル」についてとことんディスカッションを行う。

訃報

㈱水野商会会長水野格治氏

当組合理事水野勇氏の御尊父格治氏は、肺炎で入院していましたが、去る十二月十九日、御家族の看護の甲斐なく逝去されました。享年八十三歳。氏は当組合の前身である東資協田無支部（現東多摩支部）において活躍され、我々業界の礎を築かれた先達のお一人であります。

謹んで御冥福を御祈り申し上げます。（合掌）

行事・行動

【平成一九年九月】
四日：(社)東リ協会リサイクルマーク検討委員長会
八日：小平市エコ祭
九日：東北資連総会
一〇日：東資協理事会・多摩会議
一一日：定例理事会
一二日：小平ＲＣ安全会議
一五日：日資連理事会
：東久留米環境勉強会
一八日：業務委員会
：青年部・中国語講座
一九日：(社)東リ協会理事会
二一日：青年部会議
二七日：古紙Ｃ業務委員会
二八日：盛岡地区視察
三〇日：関資連総会

【一〇月】
五日：中央会講演会
：青年部会議
七日：武田邦彦氏シンポ
八日：小平ＲＣ安全会議
九日：東資協理事会
一〇日：港区リ協一〇周年式典
一一日：定例理事会
一三日：青年部設立五周年式典
一四日：清瀬市市民祭
一五日：(社)東リ協会理事会
一八日：小平市廃棄物減量審議会
二三日：東村山廃棄物減量審議会
：日資連西日本支部長会議
二三日：広報委員会
二五日：古紙Ｃ業務委員会
：中央会全国大会
二八日：東村山市リサイクル祭
：東久留米環境勉強会

【一一月】
三日：日資連研修会
四日：日資連研修会
五日：青年部会議
八日：東資協理事会
一一日：(社)東リ協会視察
：定例理事会
一四日：小平ＲＣ安全会議
一七日：日資連理事会
一九日：業務委員会
：広報委員秋
二一日：(社)東リ協会理事会
二二日：古紙Ｃ業務委員会
二六日：東京商工連大会
三〇日：エコアクション２１ヒアリング

【一二月】
三日：(社)東リ協会ヒアリング
四日：(社)東リ協会台湾視察
六日：(社)東リ協会台湾視察
八日：組合納会
一〇日：東資協理事会
一一日：定例理事会
一二日：広報委員会
一四日：小平ＲＣ安全会議
一五日：関資連理事会
一六日：エコ検定試験
一八日：財務委員会
一九日：(社)東リ協会理事会
二九日：仕事納め

【平成二〇年一月】
四日：仕事初め
一〇日：中央会賀詞交換会
：古紙Ｃ賀詞交換会
：鉄Ｒ工賀詞交換会
一一日：定例理事会
二三日：小平市廃棄物減量審議会
二五日：古紙Ｃ業務委員会
二六日：日資連理事会
三〇日：(社)東リ協会理事会

編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年は、「偽」の一年となりましたが、「そんなの関係ねぇ」と全て忘れて、今まで出来なかった事に挑戦する新年にしたいものです。平成も二十歳になり、成人式を迎えて大人になったのですから。

今号の直言拝聴に御寄稿下さった馬場様、皆様の環境活動に感動しました。「地球温暖化」に対して各国が議論を重ねています。来年の洞爺湖サミットの主要議題ですが、その中に地球市民の取り組みとしてエコダイラネットの活動なども取り上げて頂けたらと思いました。

昨年十二月十六日にエコ検定試験を再度挑戦しました。

二月の発表が少し楽しみです。

（吉浦高志）